



議会

令和3年 第3回定例会

令和3年第3回定例会が9月8日に開催されました。会期日程は、8、9日の2日間。町防災会議条例の一部改正や令和3年度町一般会計補正予算など議案9件、同意2件が審議され、原案通り可決しました。また、7件の報告があったほか、認定6件は決算審査特別委員会に付託され、閉会中に継続審査されます。主な内容をお知らせします。

同意

- ◆厚真町教育委員会委員の任命
厚真町教育委員会委員に金光えりさん（上厚真）を任命することに同意されました。
- ◆自治功労賞表彰
厚真町商工会会長の寺坂文秀さん（本郷）を自治功労表彰することに同意されました。

報告

- ◆所管事務調査報告（各常任委員会）
- ◆委員会調査報告（北海道胆振東部地震復興特別委員会、議会改革調査特別委員会、新庁舎周辺等整備調査検討特別委員会）
- ◆財政援助団体等に関する監査の結果報告
- ◆定期監査の結果報告
- ◆現金出納例月検査の結果報告
- ◆教育委員会の事務事業の点検・評価報告
- ◆令和2年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率

議案

- ◆厚真町防災会議条例の一部改正
- ◆厚真町複合型地域福祉活動拠点施設設置及び管理に関する条例の一部改正
- ◆厚真町国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部改正
- ◆財産の取得

北海道から厚幌ダム建設事務所等建物を取得

- ・内訳：コア倉庫や車庫、宿舍など合計29件、数量合計1187・96㎡
- ・取得金額：1720万9060円
- ・取得の相手方：北海道
- ◆財産の取得
- ・学校給食センター配送車を取得
- ・取得金額：815万3577円
- ・取得の相手方：北海道市町村備荒資金組合

- ◆平成30年災第626号準用河川ウツル川災害復旧工事請負契約の締結
- ・契約方法：指名競争入札
- ・契約金額：5522万円
- ・契約の相手方：北辰・今多経常建設共同企業体

- ◆厚真町過疎地域持続的発展市町村計画（令和3年度（令和7年度）の策定）
- ◆令和3年度厚真町一般会計補正予算（第9号）
- 令和3年度厚真町一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ4億1705万3千円を追加し、総額は102億4563万6千円になりました。補正された主な事業は次の通りです。
- ・庁舎周辺等整備事業：495万円
- ・サテライトオフィス整備事業
- ・災害廃棄物処理事業：800万円
- ・農業後継者総合育成対策事業
- ・豊沢地区観光・交流拠点整備基本計画策定事業：236万円

- ・豊沢地区観光・交流拠点整備基本計画策定事業：236万円

- ・公営住宅環境改善整備事業
- ：1802万5千円
- ・古民家再生推進事業：1億9千万円
- ・防災施設整備事業：937万円
- ・文化財保護事業：198万8千円
- ◆令和3年度厚真町介護保険事業特別会計補正予算（保健事業勘定補正予算（第1号））

- ◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書
- ◆コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書
- ◆国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

認定（付託）

- ◆令和2年度厚真町一般会計歳入歳出決算の認定
- ◆令和2年度厚真町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◆令和2年度厚真町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定
- ◆令和2年度厚真町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◆令和2年度厚真町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◆令和2年度厚真町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定

町長行政報告

○町内の新型コロナウイルス接種状況について

町内における新型コロナウイルスの接種状況は、9月2日時点で、65歳以上の対象者1741人のうち1回目の接種を終えた方が1626人（うち町外接種者80人）、接種率は93・4%、2回目の接種を終えた方が1597人（同74人）、接種率は91・7%となっています。

また、12歳以上64歳以下の対象者2329人のうち1回目の接種を終えた方が1844人（同123人）接種率79・2%、2回目の接種を終えた方が1613人（同103人）、接種率69・3%となっています。

9月16日で、町が実施する集団接種を終了しますが、10月からあつまクリニックにおいて、今年度新たに12歳になる方および未接種の方で接種を希望される方が接種できるよう体制を整備し、広報などで周知します。

なお、あつまクリニックでの接種日程で都合がつかない方には、10月以降、苫小牧市の集団接種会場や医療機関で接種できるよう関係機関と調整中です。

また、報道などにもあるとおり、3回目の接種が検討されているところですが、実施されることになりましたら、国からの通知に基づき、適切な時期に接種できるよう体制を整えます。
○令和2年度豊沢地区宅地耐震化工事

における施工不良について

令和2年度に実施した豊沢地区宅地耐震化工事で、施工不良を確認しました。令和2年度豊沢地区大規模盛土造成地滑動崩落防止工事（その1）で、請負者は岩倉建設株式会社苫小牧本店、請負金額6億9122万9千円、主な工事内容は抑止杭工9箇所、抑え盛土工5箇所です。工期は令和2年7月13日から令和3年3月17日、工事完成検査を令和3年3月26日に実施し同日受け渡ししています。

完成検査の際に冬期施工による舗装や盛土の不陸亀裂など凍上によるものについて凍解後手直しすることとしていましたが、その後大規模な施工不良を6月24日から8月25日にかけて確認しましたので、その内容について申し上げます。

大きく3点で、1点目は抑え盛土工で設置したフトンカゴにおいて規格を大きく外れる玉石が多く混入し、空隙や変形が生じたものです。また、設計に無い金属網（エクスバンドメタル）を承認なく使用しており、この金属網に錆びが発生し、カゴ材へ悪影響の恐れがあること、更にカゴが不等沈下していることと判定しました。

原因は、自然石に対する規格の厳格性に甘さがあり、搬入時の材料確認と作業員への施工指導を怠り施工したところ、また、金属網については、錆がカゴ材に及ぼす影響を認識していなかったこと、不等沈下は、床面の仕上げや転圧不足によるもので見栄えを意識せ

ず施工したものです。

2点目は、抑え盛土工で使用した盛土材の栗石に設計規格を大きく外れるものが多く混入し、特に土砂が多く混入した箇所では透水性の悪化や有孔管の目詰まりを起こす恐れがあると判定しました。

原因は、玉石と同様に自然石に対する規格の厳格性に甘さがあり、搬入時の材料確認を怠ったため土砂が多量に混入した材料をそのまま受け入れたことによるものです。

3点目は、抑え盛土工に設置した径800mmの有孔管の一部に許容値を上回る変形が確認されました。この場合管の強度が低下し変形が進む恐れがあると判定しました。

原因は、管周辺の栗石の転圧不足と土破りが少ない状態で管の上で重機作業が行われたことによるものです。

これらの施工不良は、工事契約約款の瑕疵担保規定により請負者の負担において修補することで協議が整っています。

修補の内容は、1点目のフトンカゴは、全量撤去し玉石をふるい直し設計規格の粒径に整え新材のフトンカゴに設置します。

2点目の抑え盛土工の栗石は、全量搬出し石材プラントにて洗浄とふるい直しにより土砂の排除と粒径を整えたいうえで再び搬入して盛土仕上げします。

3点目の抑え盛土工の有孔管は、変形した箇所を新材に入れ替えし、その

際に管周辺の盛土材の転圧と管上の重機作業に細心の注意を払いながら再設置します。また、抑え盛土完了後に自走式カメラで管内部に異常が無いか確認します。

修補工事における再発防止について、請負者は、工事目的物を設計図書・仕様書に基づき完成させる義務があり、そのために必要な施工管理が十分であったと考察しており、修補工事にあたって請負者は、現場代理人の上にも更に熟練した統括責任者を配置し、施工管理体制を強化します。また、施工管理基準を厳格化し、通常は請負者が行う材料確認に町の監督員も立ち会うことや、施工段階における確認事項を細かく設定し、当該工事の品質確保を図ります。

町として、今後の大規模工事や特殊工事の発注にあたっては、施工管理や完了検査の支援を外部の技術者に委託するなど監督検査体制を強化します。

最後に宅地耐震化に係る工事は、居住される皆様の不安を解消し、安心・安全な生活に資する重要な工事です。この工事において施工不良があったことは、誠に遺憾であり、町としての監督責任を痛感するところです。

ルーラル地区の皆さま、関係する皆さまには衷心よりおわび申し上げます。

今後は、早期の修補と再発防止に全力で取り組みます。

○農作物の生育状況について
農作物の生育状況ですが、冬季の積

**防災無線のデジタル化に伴う
戸別受信機の更新工事について**

総務課 防災グループ ☎27-2481

町では今年、次の地区において防災行政無線のデジタル化のため、順次、戸別受信機の更新工事を行います。更新工事の際は、新型コロナウイルス感染症について、万全の防止対策を講じて行います。

■更新工事対象地区（10地区）

共栄、富野、軽舞、豊丘、鯉沼、上厚真、共和、厚和、鹿沼、浜厚真

旧型戸別受信機



音量ダイヤルの色が「青色」または「灰色」

新型戸別受信機



灰色

※対象地区以外の方で、旧型戸別受信機をお使いの方は、防災グループまでご連絡ください。

- ・今年度の設置にかかる工事費や機器・材料は町で負担し、町民の方に負担していただくことはありません。（特殊な工事等を必要とする場合は、この限りではありません）
- ・工事に際しては、身分証を携帯した工事業者が皆さまのお宅にお伺いして実施します。（戸別受信機の交換や外部アンテナの交換、外部アンテナの新規設置（一部地域）など

取り付けるアンテナはダイナポールアンテナか八木アンテナのどちらか一つです



ダイナポールアンテナ
軒下など雪害のない場所へステンレスのビスなどで強固に固定します。



八木アンテナ
敷地内に支柱を立てて取り付けます。

※一部地域では、アンテナを屋外に取り付けし、ケーブルを戸別受信機まで引き込まなければならないため、壁に1cm程度の穴を開けるなどの工事が必要となります。（ケーブルを屋内に通し、防水処理を施します）

雪量は平年に比べ少なく、融雪期は平年と比較し6日早まりました。融雪後の気象は平年並で推移し、春の耕起作業や、は種作業は概ね順調に終了しました。

胆振農業改良普及センター東胆振支所が調査した農作物の生育状況によると、水稲は、は種から移植期までの気温は平年並に推移し、苗の生育は平年並でした。移植作業も平年並に始まり、順調に進み、5月29日に終了しました。5月下旬から6月上旬にかけては低温寒害に経過したため、活着や分げつが遅れ、生育は遅れました。6月下旬以降から8月中旬までは高温多照に経過したため、冷害危険期の障害などは見られず、出穂期は7月29日と平年より4日早く経過しています。登熟前半の7月下旬から8月上旬はかなりの高温で経過しているため、成熟期についても平年に比べ早まると推測されます。

また、稔実調査による不稔率は、中苗「ななつばし」で48%（平年値70%）程度と平年並からやや低くなっており、収量と高品質米の生産を期待するところではあります。

農林水産省が発表した8月15日現在の本年産水稲の作柄概要では、北海道は「やや良」となっています。全国では「良」が1県、「やや良」は5道県、「平年並」が20府県となっています。なお、東日本を中心とした早場地帯の作柄は、概ね「平年並」から「やや良」と発表されています。

秋まき小麦は、融雪が早く起生期は平年に比べ6日早く迎えたものの平年並に生育し、出穂期は6月4日となりました。6月の天候は平年以上の日照時間が確保されたものの、収穫前の7月3半旬までは曇天が続く、成熟期の7月18日に迎えました。収穫期間は高温少雨だったため作業が順調に進み、収穫終わりが7月30日と平年よりやや早く終了しました。登熟日数は平年と同等の44日で、麦が細い傾向ながらも、粗麦重量は平年並となっています。

8月20日現在の調製状況（厚真地区）では、秋小麦の受け入れ重量は、1387トンで、等級麦は1230トン（約88・7%）を見込んでいます。また、春小麦の受け入れ重量は1037トンで、等級麦は780トン（約75・2%）を見込んでいます。

馬鈴薯は、植え付け作業が平年並に進み、萌芽後は温暖多照で経過したこと、病害虫の発生は少なく、開花期、莖葉黄変期ともに早く迎える生育は順調に進みました。収穫作業は8月中旬から始まっており、高温、乾燥傾向の影響でやや小玉傾向ですが、規格内率、品質は平年並が見込まれます。

大豆は、は種が平年並に終了したものの、出芽直後の6月4日の暴風雨の影響により一部生育が停滞したほ場もありましたが、その後回復し平年並に生育は進み、開花期は平年と比べ1日早い7月17日に迎えています。草丈・葉数は平年並、莢数は平年よりやや多くなっています。

小豆は、は種が平年並に終了し、出

芽後も順調に生育しており、開花期は平年に比べ4日早い7月20日に迎えています。草丈は平年並ですが葉数、莢数は多くなっています。

てん菜は、移植期が平年並となり、適度な降雨があったため、活着は良好でした。直播てん菜についても、大きな障害は無く出芽を迎えることができ、移植・直播ともに、順調に生育が進みましたが、7月中旬から高温、少雨が続き、その影響で葉数、根部の肥大は平年を下回っています。今後の気温、降雨によって生育の回復が期待される場所です。

牧草は、萌芽期は平年より5日早い4月5日となり、その後も順調に生育が進み、一番草の出穂期は平年より1日早い6月10日となりました。収穫は平年より4日早く始まり、収穫期は平年と比べ4日早い6月19日に、収穫終わりは平年と比べ7日早い7月3日となりました。

そ菜園芸では、ハウレン草は、春の天候に恵まれ出荷量は安定したものの、価格はやや安値で推移しました。7月からの高温により立ち枯れや焼けなどの障害が発生し、収量は激減していますが、価格は現在高値で推移しています。

カボチャは、早出しの作型については、着果時の天候不順により着果不良となり、慣行作型も猛暑の影響により着果不良で不作傾向となっています。また、輸出品の販売が例年に比べ遅れ、国産の販売時期と重なったことから、

厳しい販売環境が続いています。ブロッコリーは、6月下旬から出荷が始まり、7月中旬までは安定した出荷が続いていましたが、猛暑の影響により高温障害や病害虫等が発生し、収量は減少しています。価格は安値で推移していましたが、現在はやや高値で推移しています。

花きは、春の天候も良く生育は概ね順調に進み、病害虫の発生も少なく品質も概ね良好で推移しましたが、高温の影響により大幅な前進出荷となり、彼岸向けの作型の一部がお盆に出荷される状況となりました。価格についても、7月は安値で推移し、お盆の需要期以降も価格の上昇は鈍く、厳しい販売状況となっています。

ハスカップは、6月4日の暴風雨により枝の折損や果実の損傷などの被害がありました。また、高温により果実の皮が柔らかくなったことで収穫期間も短くなり、減収となりました。価格は平年並に推移しました。

近年、気象変動が大きい年が続いています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化により、昨年に引き続き農作物価格の下落や輸送経費負担の増加など農業経営にも影響が出ています。これらに的確に対応できるように関係機関と連携して対応するとともに、収穫作業の最盛期を迎えるにあたって、農作業事故に十分注意されるよう生産者への呼びかけを強化します。

厚真町地域おこし協力隊

起業型地域おこし協力隊
小町谷 健彦さん（36歳）
着任 令和3年4月（1年目）
出身地 札幌市



「厚真ではどんな仕事をしていますか？」

これまで映画を撮ったり、映像制作に携わってきました。その経験を活かして、映像制作全般、ウェブサイトのディレクションやブランドディング業務をしています。イベント企画や教育プログラム開発なども手掛けています。

「どのような映画が好きですか？」

映画にはフィクションとドキュメンタリーがありますが、私はドキュメンタリーが好きです。ドキュメンタリーの良いところは「自分の頭で完結しないところ」です。フィクションであれば自分で作りたように作ってしまえるのですが、ドキュメンタリーだとそれは出来ない。相手があつたことなので「こういうふう撮りたい」「こんな話が聞けるはず」という想いを持って、こつこつと裏切られます。「撮れないことを受け入れること」が大切だと学びました。

「なぜドキュメンタリーを選んだのですか？」

一本の映画がきっかけです。25歳くらいのときにその映画を見直す機会があり、これだと思ってそのままその映画を撮った監督に弟子入りしました。

その後、映画の制作会社に入社し、ドキュメンタリーに深く関わるようになりました。映像には人生を変える力があります。

「現在の生活はいかがですか？」

意外と「都会だな」と感じています。以前は道東の小さな町に住んでいました。その町の環境はともに入っていました。でも、映像関係の仕事で起業を意識すると、案件は「札幌」に多く、その町からだ移動が難しい。その点、厚真町は苫小牧市や千歳市も近いので、札幌市も十分仕事圏内です。お陰で今は外に出る機会が多く、厚真町にいる時間が取りにくいのが悩みです。もっと厚真町での時間を増やしたいです。

「協力隊の3年間でどんな映像を撮りたいですか？」

町の皆さんに撮影させて欲しいとお願ひすると、きつと「私なんかたいしたことないよ」と言うんです。でも、そんなことはなくて。むしろそういう「たいしたことないこと」こそ、価値があると思います。町の人のいろんなシーンや表情を撮って「ローカル放送局」を作りたいです。